



みみだより

鳥取聾学校ひまわり分校

聴能担当

No.34

R4.4.22

文責：迫田

新年度「R4」がスタートしました。今年度も毎月「みみだより」を発行いたします。耳のこと、補聴器のこと、聴覚活用のこと等、聴能に関する様々な情報をお届けしたいと思います。お気づきのこと、ご質問等あれば、お気軽にお問い合わせください。よろしくお願いします。

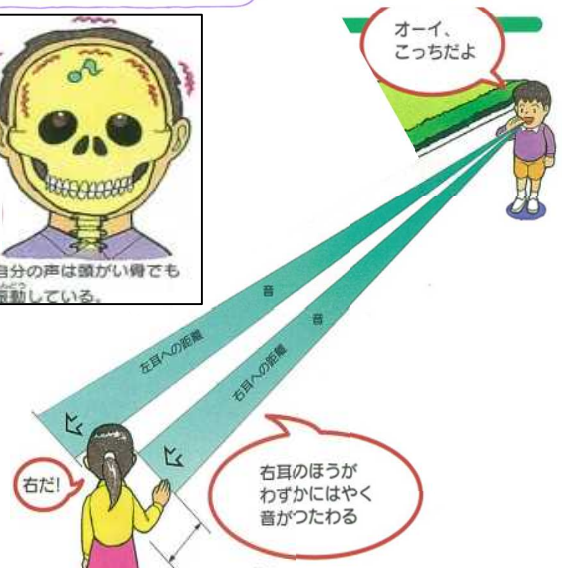
今回は、きこえ方ついて迫ります。

きこえ方、きこえの程度

耳が顔の両側にあることで、音をきくだけでなく、音の方角を知ることができます。

耳は左右離れた位置にあるので、同じ音をきいても、左の耳と右の耳では、入ってくる音の速さと強さが違います。左側で音がすれば、空気の振動は右の耳よりわずかに速く、左の耳に入ります。そのほんの少しの差を利用して、音の方向を知ることができるのです。

ところで、音の振動を伝える骨は耳小骨だけではありません。じつは、頭蓋骨も振動を伝えるのです。録音した自分の声をきくと、自分の声とは違うと感じることがあるでしょう。自分が話すときには、耳から音がきこえると同時に、頭蓋骨を伝った音も一緒に入ります。普段はその両方を一緒にきいているので、録音した自分の声をきくのとは違うように感じるのです。



0デシベル	10デシベル	25～30デシベル	60～70デシベル	90デシベル	140デシベル
いちばんかすかな音	風にゆれる木の葉の音	ひそひそ話	人の話し声	地下鉄の音	ジェット機の音

ひとくちに耳がきこえにくいといっても、人により、きこえの程度はさまざまです。たいていの人は、まったくきこえないということではなく、それぞれにきく力が残っています。この状態を難聴と呼んでいます。きこえの程度はデシベル(dB)で示されます。上の表を見てください。どの程度の音まできこえるかによって、「聴カ〇デシベル」というように言います。

デシベルとは音の強さの単位で、電話の発明者でもあり、ろう教育に尽くしたグラハム・ベルの名前にちなんだものです。ベルの母も耳がきこえませんでした。

ワンポイント手話

